

## 気どらない人間くせれ

野呂 恭 一

故大平正芳先生の回想録が刊行されるにあたり、第二次大平内閣で厚生大臣をつとめたものとして、その遺徳をしのびつつ心より哀悼の意を表する次第であります。

私が、閣僚の一人として、直接大平先生からご指導をいただいた日時は短いものでありましたが、静かに當時をふりかえってみるにつけ、いまさらのように大平先生の包容力、奥行きの高さに胸打たれる思いがしてなりません。

大平総理の中国訪問の日程が発表された閣議後、私は、中国東北地区巡拝慰霊訪中団の実施について「外務省では、この問題は外交上の総理協議事項ではないということですが、これは内政としても大きな問題であり、多年にわたる二十五万人の戦没者遺族の念願ですから、ぜひ実現方をお願いします」と訴えました。

大平総理は二つ返事で「うん、よくわかってる。責任をもって決めてくるよ。ただ、問題は慰霊行事の持ち方、団の編成等については、中国側にも意見があるようだから、よく話し合ってみよう」といわれました。

果たせるかな、大平総理の訪中の成果として、東北地区戦没者遺族中国訪問が決まり、昭和五十五年五月、私は、六十名に及ぶ全国遺族代表の方々と中国を訪問したのであります。

きわめて友好的な扱いをしていただいた中国の関係機関に対してはもちろん、訪中実現に大きくつくしてくださった大平先生に対する遺族の方々の感謝の念は、いまなお大きいものがあろうかと存じます。

やはり、これも閣議のことですが、食品添加物の問題で新聞に報道される前に「うどんやかまぼこ等の漂白に使用されている過酸化水素が、発ガン性をもっていることが学者の研究会でわかりました」と報告しました。

大平総理は一瞬驚いたようで「讃岐うどんもいかんのか。……みんなが、心配のないようにしてくれよ」と。「普通の食べる分量では問題はないようです」と付け加えると「わしは、うどんやそばが好きでこのう」と、細い目をいつそう細くされたのが強く印象に残っております。

その後、自民党青森県連主催の政経文化パーティーにお伴した折も、大平総理は昼食に出されたかけそばを「「りゃ、うまい」と、音を立てながら、大ワンで三杯もおかわりされるほどでしたが、その気どらない人間くささのなかに、私は、大平政治の真髄を垣間見たような気がしてなりません。

「私は、これという取柄のない六十年のみずからの生涯を通して、数多くの友情と好意に支えられ、健康と幸福を享受してきた。また、公私にわたる自分の仕事を、ともかくも大きい過誤なく手がけることができた。しかし、ここでその貸借対照表を作ってみるとしたら、おそらく、その姿は、借方に借記した数字があまりにも大きく、貸方に貸記した数字がそれに較べてあまりにも少ないことになるのではなからうか。還暦を迎えて、私は六十一年度の坂に差しかかっている。これからの私の任務は、いうまでもなく、この借記した数字をカウンターバランスするために、精一杯努力しなければならぬ。……」

日本経済新聞に連載された、大平先生の『私の履歴書』のなかの一節ですが、全文をつらぬく謙虚さ、誠実さこそは、まさに人間・大平そのものであり、政治家の道標でしょう。

与野党伯仲のきびしいなかにあつて、卓越した指導力を発揮され、幾多のご功績を残された故大平総理の死を悲しむとともに、そのご遺徳を追慕申し上げる次第であります。

(衆議院議員・第二次大平内閣厚生大臣)